

# 鍵をかけよ

麻田春太

残暑ではなかった

激しい暑さは

土を潤らし水を欲しが

干からびた土の割れ目から

向日葵が笑いながら

空を見上げている

見下ろす太陽は燃えている

暗褐色の土を

雑草が覆い隠そうとしている

全ては過ぎ去った

貴方を風化させない為に

積乱雲が立ちのぼってきた

忘れた頃にやって来る

豪雨

いや、それはゲリラだ

わたしたちを破壊する

ゲリラだ

焦ってくる気持ちと

もう あきらめの気持ちと

複雑で不条理だ

だから

俺は命を預け

人生に鍵をかけた